

# 長崎高教組新聞

発行  
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号  
長崎高教組会館  
長崎県高等学校教職員組合  
☎ (095)-827-5882  
FAX (095)-826-2976  
編集責任者 大塚雅信  
購読料 一部10円  
組合員は組合費に含む  
メールアドレス  
naga-kks@sinet.or.jp

## 「第9回子どもと教育を考えるシンポジウム」開催

### 競争の教育でなく生徒を学ぶの主人公に！

2月16日(日) 子どもと教育の未来をひらく長崎県民の会(高教組、高退教、私教連、新婦人、県労連、登校拒否を考慮の親の会など23団体で構成)は「第9回子どもと教育を考えるつどい」を長崎県教育文化会館で開催しました。参加者は62人、うち高教組から41人が参加しました。高校生も2人参加しました。爆弾低気圧による首都

圏の大雪で羽田空港が使用できず、講師の小池先生の来崎が危ぶまれましたが、急遽新幹線に乗り換え、鳥栖で一泊して長崎にかけつけるといいう強行日程で参加していただきました。



(左) 報告を行う錦戸さん  
(下) 小田副委員長の開会あいさつ



くみ報告と課題が提起され、「子と親」「親と教師」「親と教師」「親と教師」が共に学び育つという6つの「共育」が、「競争の教育」「統制・管理の教育」「知識記憶偏重の教育」「教育活動の自由の縮小」「社会格差・経済格差」という現代教育をめぐる矛盾の中で分断されている問題を指摘され、「子どもの誇りと夢を大切にす教育」を実践するために改めて「共同」「協働」「協働」の大切さを訴えました。

その上で、秋の教研での滋賀高教組西村大志先生の講演「受験シフトの高校教育は本当に生徒のためになるのか」に続いて、今回の小池由美子先生の「競争の教育でなく生徒を学ぶの主人公へ」学び合いで変わる生徒・教職員」の講演への期待を熱く語りました。

最後に、改めて「共育」を支える「共同」「協働」「協働」による教職員や保護者・地域との連携が来年度の教研活動の課題であることが強調されました。

講演をしていただいた小池先生は、昨年度の受験実績で、国立公立大が倍増し、難関私立大も軒並み合格者が増加したとして、ベネッセでも紹介された埼玉県立川口北高校の国語教師で、総合学習の担当、道徳教育の責任者でもあります。

小池先生の講演の要点は次のとおりです。

◇ 「受験知識注入のための演習漬けの授業に限界を感じ、生徒一人ひとり主体的に考える力をつけ、それが主権者である自覚を促す人格形成につながる力は受験においても発揮されるはずだ」と『国語の学び合い』を授業で実践しました。埼玉県総合教育センターが提唱した言語活動向上の授業形式とも合致し、新しいとくくみ始めるにあたって学内・生徒・保護者からの不安感や反対は少なかつたようでした。

「4人を基本とする班で『図書館での調べ学習』として『発表』という形式で授業を進め、子どもたちの間に、間違いや失敗を恐れなくなる、答は一つでなく自分で探し出すことに気付き自信を持つ、多様な考えを認め合う、共同の力で学びを作る、期待される『よい子』から脱却する、社会と他者・自分との関わりを共に

同で考える力を認識した等々の成長が見られました。高校で身につけたい学力と受験で求められる学力は、二律背反で捉えるものでなく、それが一致していくことが本来の高校教育のあり方であることを確認できました。受験実績の伸長はそれを証明しています。

「総合学習や道徳教育でも『ポスト3・11』日本の復興と私たちの進路を考える」と、『沖繩修学旅行事前学習』平和宣言文の作成のテーマで、ワールドカフェ方式を取り入れた学び合いを行い、あらゆる教育活動とおして、人に親切に思いやる心を常に持ち、日本及び国際社会に貢献できる人格への成長を生徒一人ひとりが具体化し、道徳教育を憲法が生きる学校づくりへつなげる契機となりました。

「学び合いの実践の中で生徒が成長、変化し、学級・学年の雰囲気が変わって行くに従って、教職員の支持が拡大し、変化が目に見える形であらわれてきました。」

最後に、「教職員の仕事とは、生徒に、人間らしく生きる力を育てることであり、生徒の可能性を信じ、生徒理解に努めることが教職員の専門性です。日々の教育活動、学習活動の中にこそ、教職員の教育の自由があり

ます。教育の条理に基づく実践は、必ず保護者・地域・教職員の理解を得らるものであり、粘り強い教職員の合意形成が学校づくりの第一歩なので、す」とまとめられました。

・ 具体的な実践を聞いてやる気が出てきました。こんなことをやりたい授業も総学でも日々のいろいろ思うことがあるのですが、言い出せない

・ 大規模進学校でこのような取り組みを行ったというところに正直驚きました。一見、遠回りのような方法が、実は最も効果的なのだということだと思います。

・ 県下で有数の進学校に勤務しており、日々忙しい中で授業の工夫や生徒と接する時間、組合活動にたずさわる時間がとれず、流されていました。しかし、久しぶりに組合関係の集まりに来て、本当に元気をもらいました。受験の学力と本当の学力の間で悩んでいましたが、二者択一でない道を改めて模索しなおす力を得ました。

・ 古典の授業でグループで討論したことがありましたが、その授業が一番記憶に残っています。グループで話すことで色々な意見を気軽に聞くことができ、そこからまた自分の考えを発展させていくことができたからだと思います。(高校生)

が現状です。逃げずに、自分が担当に名乗りを挙げる、見聞を広げて計画を練る、周りを巻き込む、自信を持つてやってみようと思わされました。

・ グループワークの活性化を試みているのですが、指導力が足りず、生徒たちが「わかった」と実感する前に授業が終わってしまっています。講演を聴いて、テーマへの動機付けが必要だと感じました。頑張りたいと思います。「わらない」を肯定的に捉えていく生徒を育てる、「わかない」から自分

・ 世界史の授業を聞くだけでは、時代の流れや国と国のつながりは理解しがたいものでした。しかし、休み時間に友人と「さっきの授業ってさー、○○ってことー？」と聞くといや、○○は△△をして、だから××の戦いが起きたんだよ」と答えて返ってきて、議論になって理解が深まることとが良くありました。だからとても「学び合い」は素晴らしい活動だと思えました。(高校生)

・ 世界史の授業を聞くだけでは、時代の流れや国と国のつながりは理解しがたいものでした。しかし、休み時間に友人と「さっきの授業ってさー、○○ってことー？」と聞くといや、○○は△△をして、だから××の戦いが起きたんだよ」と答えて返ってきて、議論になって理解が深まることとが良くありました。だからとても「学び合い」は素晴らしい活動だと思えました。(高校生)

・ 世界史の授業を聞くだけでは、時代の流れや国と国のつながりは理解しがたいものでした。しかし、休み時間に友人と「さっきの授業ってさー、○○ってことー？」と聞くといや、○○は△△をして、だから××の戦いが起きたんだよ」と答えて返ってきて、議論になって理解が深まることとが良くありました。だからとても「学び合い」は素晴らしい活動だと思えました。(高校生)

### 小池由美子先生の講演 教育の条理に基づく実践は、必ず保護者・教職員の理解を得られる

参加者の感想(一部)

・ この企画を楽しみにしていました。若い先生方も4人ほど声をかけてみな来てくれました。次年度の国語の教科研では「学び合い」実践を宿題にして、その実践録を持ち寄ろうと(成功しても失敗しても) 思います。



(上) 講演する小池さん  
(左) 講演に聞き入る参加者

障教部環境学習会

全国の実践に学び意見交流

障教部は2月22日、今年度中に開かれた全国規模の学習交流集会の参加者からの報告を中心とする環流学習会を開催し、退職者2人を含む11人が参加しました。

学習会ではまず、1月に山口市で開催され、長崎からも7人が参加した全国障害児学級・学校学習交流集会の報告が行われました。「取り組みの個別化傾向を乗り越える」という副題がつけられた記念講演(講師・茂木敏彦氏)、高等部の3年間をおととしてとりくまれた実践教育の実践報告、ブロック取りゲームを活用した算数の実践報告、オリジナルの紙芝居などを冊子にして多くの教材をつくった国語の実践報告、寄宿舎生の「身だしなみ」についての指導実践報告、等々、各参加者

女性部が研修旅行を計画！ 弘前の町、橋原町に行こう！

構原(かきはら)町は高知県西部にあり、公民協働の木質バイオマス地域循環モデル事業の実施によって、山村型低炭素社会の実現と地域資源利用による電力自給率100%超を目指し、注目されています。



「3・29集会」に長崎から「怒りの龍」を！ 「うろこ(アピール)」作成をすすめよう！

「3・29」の全国学習決起集会で安倍政権に突きつける「怒りの龍」作成のための「怒りのうろこ」の取り組みを各分会にお願いしています。先日は、諫早農業分会から14枚の「怒りのうろこ」が届きました。小浜分会、佐世保西分会、諫早東分会、鳴滝夜間分会などから「うろこ」の追加送付の連絡が入ったりしています。

分会で1枚書くもよし、分会員一人ひとりが書くもよし、未組の人が書くもよし、そして、長文でもよし、短文でもよし、一文字でもよし、イラストでもよし、とにもかくにも今の安倍政権への「怒り」や「疑問」「切なる願い」などを書いて、返信用封筒で早急に送ってください。

3月15日から「龍」の本体に「怒りのうろこ」を貼って、「怒りの龍」を完成させます。寸詰まりの龍では迫力がありません。人民のために慈雨を降らせる「龍」を皆さんの協力で完成させましょう。



「怒りのうろこ」の3人が参



(上) 長崎駅前での早期宣伝 (下) 県医師会への要請行動



2月21日、長崎市アラムスで原発ゼロをめざす長崎連絡会第3回総会が開催され、高教組は7人が参加しました。原発推進を許すのか、原発ゼロの道を切り開くのか正念場を迎えている状況の中で、「ふくしま復興共同センター」代表委員で福島県労連議長齋藤富春さんを講師に迎え、記念講演「3年目を迎える福島原発事故の実態と教訓」を聴きました。3年目を迎える今もなお福島県民の生存権・居住権・財産権をことごとく侵害している原発事故、まさに憲法13条「幸福追求権」の侵害に当たるとの憲法違反の状況にあることが、齋藤さんの講演からあらためてわかりました。

2月18日、長崎県春闘共闘会議主催で、2014年春闘地域総行動が長崎市を中心に、各地で展開されました。「たたかいてもう大幅賃上げ、くいとめよう憲法改悪、ゆるすな雇用・くらし破壊の暴走政治」のスローガンを掲げ、①早期宣伝、②団体訪問、③闘争宣言集会を行いました。早期宣伝では、長崎駅

前宣伝に15人が参加。出勤する人たちに、「不況から抜け出すためには働くものの賃上げが必要」「労働法制の改悪反対」「安定雇用の確保を求めよう」などと訴え、ピラ配布をしました。ピラを受け取った人々は、私達の訴えがうなずいていました。高教組は、大場委員長、馬場書記長、今泉執行委員が参加しました。

早期宣伝に引き続き行われた団体訪問では、経営者協会、建設協会、県医師会、協ラック協、九州電力などを訪問し、前もって渡していた要請書の内容に従って、各団体が抱えている課題について懇談を行いました。高教組からは前述の3人が参

加しました。夕方には地域総行動の締めくくりとして、闘争宣言集会が、長崎市の勤労福祉会館で行われました。高教組をはじめ、長崎県春闘共闘会議の参加団体から決意表明がなされました。最後に、「4月の消費税増税を契機に物価上昇が予想される中、賃上げがなければインフレ不況が予想される。状況は、賃上げが日本経済にとって最重要課題となっている

環流学習の後は、退職者から、PTAで長崎バスのバス停までの路線延伸の実現したととりくみ等が報告されたとともに、1月24日に行った県教委交渉の状況についての報告と到達点の確認も行われました。

また、放射能汚染の取東にはほど遠く、課題は複雑・深刻化している中で、議会・県民が一体となった「オール福島」の原発ゼロをめざすたたか

い国を動かし始めている状況が語られ、原発ゼロ長崎連絡会として、これからも積極的に「福島」を支援していくことが確認されました。講演の後、総会では、県下各地のとりくみや海原訴訟のとりくみの現状などが報告されました。その後、事務局(長崎



2・18長崎県春闘共闘地域総行動

早期宣伝・団体訪問などで大いに奮闘

